



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年7月31日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

新疆公安ファイル・不条理な現実

7月31日(日)＝1、3面



「中国新疆ウイグル自治区テケス県の拘留所での訓練とみられる画像。手錠、足かせ、覆面をつけられ連れ出される収容者。画像データによると、2018年9月25日午後4時31分35秒に撮影された＝「新疆公安ファイル」より」

中国新疆ウイグル自治区での取材経験があるニューヨーク特派員が今年3月、「新疆公安ファイル」を入手しました。ウイグル族らの收容政策を巡る中国当局の内部資料で、電子データには、中国共産党幹部の発言記録や、收容施設の内部写真に加え、2万人分以上の收容者リストなどが収められていました。

この公安ファイルにあった1枚の写真には、手錠、足かせ、覆面をつ

けられて連れ出される收容者の姿がありました。また、中国当局によって再教育施設などに送られた收容者の顔写真が、流出資料の分析をしてきた研究者によって公開されると、各国で暮らすウイグル族らから「知り合いだ」といった声が相次ぎました。

特派員がかつて取材した新疆の様子や、ウイグル族を取り巻く不条理な現実に迫ります。

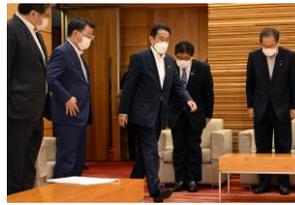
論点

賛否渦巻く国葬

8月3日(水)＝オピニオン面

銃撃を受け死亡した安倍晋三元首相の国葬実施をめぐる、賛否両論が湧き起こっています。首相経験者の国葬は戦後2例目で、1967年の吉田茂元首相以来となります。岸田文雄首相は国葬について「暴力に屈せず、

民主主義を断固として守り抜くという決意を示す」と説明しています。国葬の歴史や、その意味について、安倍氏の評価も織り交ぜながら、賛成、反対双方の立場から識者に解説してもらいました。



安倍晋三元首相の国葬を決定する閣議に臨む岸田文雄首相（中央）＝首相官邸で7月22日、竹内幹撮影

原爆ドーム＝広島市で2019年、佐藤泰則撮影



広島、長崎の原爆の日を迎えます。77年たってもなお、心や体への傷が癒えない被爆者は少なくありません。生後間もない孫の死

を「自分のせいだ」と思い悩む男性。原爆放射線を浴び、脳や体に重い障害を負って生きる男性。ロシアのウクライナ侵略を発端に核リスクが高まる中、危機

特集 「ヒバクシヤ」

8月1日(月)＝特集面

感を募らせる被爆者たちの切実な声に耳を傾けました。広島、長崎両市長から毎日新聞に寄せられた寄稿文も併せて紹介します。

特集 ワイド

どうなる節電の夏

8月2日(火)＝夕刊特集ワイド



今年は6月下旬の猛暑で電力需給が厳しくなりました。暑さが和らいでも、暖房が必要な冬にはまた電力の綱渡りが予想され、岸田文雄首相は参院選が終わるや否や原発稼働を進めることを表明しました。日本のエネ

ギーの未来はどうなるのか、識者に聞きました。また、明かりを最小限にした「暗闇営業」を始めた千葉県佐倉市のライブカフェ「そばカフェ301」＝写真＝を記者が訪れ、節電についても考えました。

新毎日



(石原聖)



「伝えるって、つなぐこと、だと思おう」。俳優・のんさんがこう語りかける毎日新聞の新しいCM「のんと毎日新聞」を公開しました。見落とされがちな現実、光を当て、その本質を粘り強く報じることで、誰ひとり取り残されぬ社会へとつなげていく。創刊以来150年大切にしている姿勢を伝えてくれており、特設サイトでは、のんさんと記者の対談も収録されています。QRコードからぜひご覧ください。

